

令和3年度
劇場・音楽堂等機能強化推進事業
(地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業)
成果報告書

団 体 名	公益財団法人キラリ財団	
施 設 名	富士見市民文化会館キラリふじみ	
助 成 対 象 活 動 名	公演事業・普及啓発事業	
内 定 額 (総 額)	18,439	(千円)
	公 演 事 業	15,147 (千円)
	人 材 養 成 事 業	0 (千円)
	普 及 啓 発 事 業	3,292 (千円)

(1) 令和3年度実施事業一覧【公演事業】

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	『モガ惑星～宇宙は遠い 記憶のおんがくかい』(ド レもソラミミ編)	8/21(土)、22(日)	出演：鈴木モモ、服部美千代、田村 緑、入手杏奈、つむぎね、キラリ☆ かげき団、巻上公一、向雲太郎	目標値	620
		メインホール		実績値	299*
2	キラリ☆かげき団第15回 公演	3/19(土)、20(日)	演出：大石哲史、照明：篠木一吉、 舞台監督：八木清市、音楽監督：萩 京子、出演：キラリ☆かげき団	目標値	660
		マルチホール		実績値	278*
3	芸術監督3人いる！企画 『Are you Heroine?ん?』	12/4(土)、5(日)、 6(月)、7(火)	出演：モモンガ・コンプレックス照 明：篠木一吉、音響：大園康司、衣 装：臼井梨恵、舞台監督：庄山彰浩	目標値	660
		マルチホール		実績値	372*
4	サーカス・バザール	7/10(土)、11(日)	サーカス構成：アフタークラウディ カンパニー、出演者：吉川健斗、山 本光洋、加納真実ほか	目標値	1,020
		全館		実績値	来場者 2,093名 有料公演 707名*
5	二兎社『鷗外の怪談』	11/7(日)	作・演出：永井愛、出演：松尾貴史、 瀬戸さおり、味方良介、淵野右登、 木下愛華、池田成志、木野花	目標値	450
		メインホール		実績値	308*
6	キラリふじみ・コンサート シリーズ2022	1/29(土)	出演：毛利文香、田原綾子、笹沼 樹、 佐野央子、兼重稔宏	目標値	400
		メインホール		実績値	136*
7	橋爪功・冬の朗読	1/23(日)	演目：眉村卓「仕事ください」、芥川 龍之介「鼠小僧次郎吉」 演出：内藤裕子、出演：橋爪功	目標値	470
		メインホール		実績値	272*
8	キラリふじみ狂言公演 万作の会『磁石』『弓矢太 郎』	3/2(水)	演目：『磁石』『弓矢太郎』 出演：野村萬斎、石田幸雄ほか	目標値	620
		メインホール		実績値	329*
9	キラリ☆風流寄席	6/26(土)	出演：春風亭正太郎改め 九代目 春風亭柳枝、春風亭ぴっかり☆、春 風亭昇也、柳亭市好	目標値	200
		マルチホール		実績値	126*

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

(3) 令和3年度実施事業一覧【普及啓発事業】

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	キラリふじみ・ダンスカフェ and ダンスの時間	ダンスカフェ：全4回 ダンスの時間：全6回	出演／酒井直之、北川結、鈴木モモ、小野彩加、鈴木ユキオ、高橋淳ほか	目標値	30名×10回+20名×5回=400名
		アトリエほか		実績値	136名*
2	第5回 ふじみ大地の収穫祭	11/23(火・祝) 中止*	新型コロナウイルス感染症のため開催中止	目標値	1,200名
		全館		実績値	—
3	こどもステーション plus	4/24(土)ほか 全10回	進行：白神ももこ、田上豊ほか	目標値	20名×15回=300名
		マルチホールほか		実績値	129名*
4	ワークショップ 夏休みこども劇場『えんげきをつくろう』	7/26(月)～ 8/1(日)	進行役：南波圭(特定非営利活動法人演劇百貨店)及び同百貨店メンバー	目標値	参加者数：20名／入場者数80名
		マルチホール		実績値	参加者6名／入場者30名
5	ワークショップ 『ツナがる演劇～中高生の最初の一歩～』	3月(中止)*	新型コロナウイルス感染症のため開催中止	目標値	参加者20名／入場
		マルチホール		実績値	—
6	小中学校へのアウトリーチ・ワークショップ	12/9(木) 12/10(金)	講師：シテ方：塩津圭介 笛：小野寺竜一 小鼓：清水和音 大鼓：大倉慶乃助 太鼓：林雄一郎	目標値	述べ12校45クラス×35名=1,575名
		市内小学校		実績値	177名*

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

2. 自己評価

(1) 妥当性

自己評価
<p>社会的役割等（ミッション）や地域の特性等に基づき、事業が適切に組み立てられ、当初の予定通りに事業が進められていたか。</p>
<p>「劇場・音楽堂等の活性化に関する法律」の前文に述べられている、地域社会において劇場が期待される役割を深く認識し、これに基づく当館のミッション、「心のゆとりや生きる活力に満ちた豊かな市民生活」の実現にむけ、芸術監督と幅広いジャンルの提携アーティストが中心となって展開する公演事業9事業、普及啓発事業6事業を計画し、コロナ禍により中止をした普及啓発2事業を除く、<u>公演事業9事業、普及啓発事業4事業</u>を、コロナ禍における様々な制約に対処しながら、概ね予定どおりに実施をすることができた。</p> <p>個々の事業内容の立案については、首都圏の30km圏内という立地や、農業を生業にこの地に根をおろし先祖代々暮らしている住民から2000年代に転居をしてきた若い世代の住民に至るまで、様々なバックグラウンドやライフスタイルを持つ市民が暮らす富士見市の地域性を勘案し、「①鑑賞」「②体験・交流」「③育成」「④支援」の4つの事業運営方針に基づいた計13事業を展開することで、「開かれた場」、「出会いや交流の場」、「人材を育む場」の、当館のミッション実現にむけた3つの場づくりに取り組んだ。</p> <p>本年度の事業においても、公演事業では客席定数50%の中での上演、普及啓発事業では参加者人数の制限を強いられる形となったが、そうした中でも、白神ももこ、田上豊の2人の芸術監督のもと、演劇、舞踊、音楽のジャンルのアーティストや「キラリ☆かげき団」の市民らの多様なメンバーにより創作上演した音楽作品『モガ惑星』や、白神、田上芸術監督が平成30年度までの9年間当館芸術監督を務め、現在も富士見市内に在住する多田淳之介氏をむかえ、3人の芸術監督が創作する他に類のない新しいスタイルで創作上演した『Are you Heroine? ん?』等の新たな企画を盛り込み、異なる価値観を持つ市民がその違いを越えて出会い、交流し、新しい価値観や視点を共有できる場や機会の提供をより一層充実させた。</p>
<p>助成に値する文化的、社会的、経済的意義等が継続して認められるか。</p>
<p>当館が行う、地域の中核劇場としての当該評価軸のような意義を持続的に果たすための文化芸術活動の中には、市内外の各種団体と連携・協働によって意義の共有を図りながら行っている活動があり、以下はその具体例である。</p> <p><主に文化的意義、社会的意義を持つ活動の例></p> <p>◆「キラリふじみ・コンサートシリーズ」の関連企画「公開リハーサル」には、日ごろ、コンサートへの来場にはハードルが高い、未就学児童を同伴する親子の観客や、市内の障がい者福祉施設の入所者を無料招待した。コロナ対応のため、今回は障がい者福祉施設からは来場が無かったが、今開催で6回目を数えるこの企画では、幅広い層への鑑賞機会の提供にあわせて、鑑賞者の水準向上にも寄与している。</p> <p>◆「サーカス・バザール」では、おやこ劇場（志木、朝霞、新座）のメンバーが、ワークショップ「大きなガラスに絵を描こう!!」の運営を担当し、青少年の劇場との出会いの場づくりを協働している。おやこ劇場とのこのような協働は、この地域社会の中で不可欠な活動のひとつとして認知されている。</p> <p><主に文化的意義、経済的意義を持つ活動の例></p> <p>◆「サーカス・バザール」や「大地の収穫祭（今年度はコロナ禍により中止し代わって過去開催の記念誌を発行）」では、市内の農業者や商業者と、「食と文化＝まちづくり」の考え方の共有を図りながらイベントづくりを協働しており、全市的にも、まちづくりに不可欠な2大イベントとして年々期待感が高まっている。</p> <p>◆市民が主体となり活動を続ける「キラリ☆かげき団」は、コロナ禍にあっても、公演する3ステージ全てを市民の手でチケット販売し観客を満員とする、市民と劇場を繋ぐ存在として大きな意義を果たしている。</p>

(2) 有効性

自己評価

目標を達成したか。

客席定数半減（50%）や舞台上での感染症対策のための人数制限等により、設定した指標（数値）には届かなかったが、事業の枠組みを維持し、かつ限られた条件のなかで、以降に繋がる最大限の成果が得られるように努めた。

<公演事業>

目標1 事業へ参加するアーティスト数や創作・上演活動への市民の参加者数を充実・発展させる。

- 『モガ惑星』→①参加アーティスト数 目標：音楽10名（組）/舞踊10名（組）→実績：15名
* 今回の参加アーティストのうち、3名（組）のアーティストが、令和5年度開催の『モガ惑星』（第二章）の出演が決定している。

②市民参加者数 目標：15名→実績：11名

- * 11名の参加者は、「キラリ☆かげき団」のメンバーで、本企画への参加を経て、団の活動の枠を超えて当館の他企画への参加をするようなパートナーシップが築かれている。

- 『キラリ☆かげき団公演』→①団員数 令和3年度目標：25名→実績：20名

- * 『モガ惑星』を鑑賞した数名の市民が、令和4年度内でのかげき団への入団を検討し、体験ワークショップに参加した。

目標2 公演本番の有料観客数並びに、公演に関連して行う体験・交流プログラムへの参加者数の拡充を図る。

事業名	公演有料観客数		体験・交流プログラム参加者数	
	令和3年度目標	実績	令和3年度目標	実績
芸術監督3人いる！企画『Are you Heroine?ん?』	600名	240名	20名	-
『サーカス・バザール』	1,000名	674名	100名	284名
二兎社『鷗外の怪談』	430名	276名	320名	267名
「キラリふじみ・コンサートシリーズ2022」	380名	156名	210名	120名
「橋爪功・冬の朗読」	450名	258名	20名	-
「キラリふじみ狂言公演 万作の会」	600名	323名	300名	-
「キラリ☆風流寄席」	230名	112名	200名	-
合計	3,690名	2,039名	1,170名	671名

<普及啓発事業>

目標1 普及啓発事業の多角的な展開と充実

本年度計画した全6事業は、平成23年度以降に段階的に開始し、毎年、実施内容を充実・発展させながら継続してきた事業である。本年度は、「キラリふじみ・ダンスカフェ and ダンスの時間」を加え、これまで以上に多様なアーティストが加わり、市民とアーティストによる共同創作を目標とするダンスワークショップを行った。

目標2 子どもや若い世代の参加促進

これまで以上に多くの子どもや若い世代の参加の促進を図るため、本年度は、両芸術監督が担当する、「こどもステーション plus」と、特定非営利活動法人演劇百貨店が企画から参加して実施する、「えんげきをつくろう」及び「ツナがる演劇」を、その中心的な事業とした。新型コロナウイルス感染症の影響により「ツナがる演劇」の実施を見合わせ、募集定員等の規模を限定して行った、「こどもステーション plus」は、目標：15回、参加300名に対し、10回、参加129名、「えんげきをつくろう」は、目標：7回、参加20名に対し、7回、参加6名となった。

目標3 「小中学校へのアウトリーチ・ワークショップ」の充実化

本事業は、普及啓発事業の中軸となるプログラムであり、本年度は小中学校全17校のうち、12校、45クラスでの実施を目指したが、新型コロナウイルス感染症拡大により、学校からの申込みの減少や、予定していた学校の休校や実演団体側のコロナ感染等により、市内小学校2校（能楽プログラム）での実施となった。

(3) 効率性

自己評価

アウトプットに対して、事業期間が適切で、当初の計画通りに進んだか。

<事業期間>

公演事業では、6月の「キラリ☆風流寄席」を皮切りに、3月の「キラリ☆かげき団公演」までの全9公演を、当初の計画通りに実施することができた。なお、以下2事業は、助成要望時の開催期間から変更して行った事業であり、実演者側との上演演目の決定及びスケジュールの最終調整により変更となったものである。

- 「橋爪功・冬の朗読」（申請時は「夜の朗読」）

申請時：令和3年8月[1回]（予定）→実施日：令和4年1月23日

- キラリふじみ狂言公演 万作の会『磁石』『弓矢太郎』（申請時は「演目未定」）

申請時：令和4年1月[1回]（予定）→実施日：令和4年3月2日

普及啓発事業では、4月から開始の通年事業「こどもステーションplus」他、全6事業を計画した。コロナ禍のため中止とした「第5回ふじみ大地の収穫祭」及び「ツナがる演劇～中高生の最初の一步」を除く4事業を計画通りに実施した。

当館の普及啓発事業の中軸である「小中学校へのアウトリーチ・ワークショップ」のプログラムとして2年振りに実施した能楽ワークショップで披露した「船弁慶」は、当館の開館20周年記念事業「薪能」（2022年9月）の上演演目としてこれに先駆けて上演し、当館の野外能舞台での鑑賞への関心や期待感を引き出すことができた。

アウトプットに対して、事業費が適切で、当初の計画通りに進んだか。

<事業費>

収支に関して以下のとおりであった。*支出は助成対象経費

◇公演事業	収入	[計画]10,931,000円→[実績]5,460,900円（収入率49.9%）
	支出	[計画]33,294,000円→[実績]36,183,051円（執行率108.6%）
◇普及啓発事業	収入	[計画]385,000円→[実績]12,000円（収入率3.1%）
	支出	[計画]6,891,000円→[実績]2,489,418円（執行率36.1%）

本年度においても、コロナ禍による緊急事態宣言やまん延防止等重点措置等を受けての、開館時間の短縮や客席定員の50%の入場制限等の対応をとり、かつ財団全体の財政状況の動向を注視しながら、本助成金の有効活用に最大限努めた。

公演事業では、11月には、催しの内容によって客席定員を通常に戻すことを可能にするガイドラインの改訂を行ったが、当館主催公演は年度内は50%で実施したことが収入率にそのまま表れた結果となった。

支出の執行率（108.6%）に関しては、本助成の内定額と自主事業費の主たる財源である当館の施設利用料の収入状況を見ながら本助成金の有効活用に最大限努めた結果である。

普及啓発事業の支出の執行率（36.1%）は、「第5回ふじみ大地の収穫祭」及び「ツナがる演劇～中高生の最初の一步～」の2事業の中止と「小中学校へのアウトリーチ・ワークショップ」でのコロナ禍による学校からの申込みの減少や、予定していた学校の休校や実演団体側のコロナ感染等により、市内小学校2校のみの実施となったこと、収入率（3.1%）については、前述の事業中止及び「ダンスカフェ」の実施回数を減らしたことが主な要因となった。

(4) 創造性

自己評価

地域の文化拠点としての機能を最大限に発揮する優れた事業であった（と認められる）か。

◆地域の文化拠点としての機能を最大限に発揮するための資源を最大限に活かした事業展開

平成 31（令和元）年度に当館の芸術監督に就任し、白神ももこ、田上豊の 2 人の芸術監督が率いる体制により、2 人のこれまでの過去 9 年間にわたる当館のアソシエイトアーティストとしての活動の経験を活かし、かつ、多様なジャンルのアーティストや創造団体や個人と提携した幅広い舞台芸術のジャンルの創造・上演と普及啓発の事業を実施している。

白神、田上芸術監督はこれまでの経験や実績に基づいて、当館の施設面の特性や富士見市に暮らす、ひとの個性を活かした事業を企画し実施している。今年度それを最も象徴した事業が、「モガ惑星」である。この企画は、2011 年の劇場ツアー型パフォーマンス「モガっ！記憶はだいたい憶測。」、昨年度のこどもとおとなでつくるおまつり「モガ溪谷」に続く、市民の観客からは“モガ”の愛称で、参加や鑑賞の好循環を生み出しているシリーズで、今作では当館メインホールの特徴である音響の良さを最大限に活かした、演劇、音楽、舞踊と多様なジャンルのアーティストによる音楽作品を創作上演した。この創作に加わった「キラリ☆かげき団」は 2006 年に発足した館付属の市民オペラ合唱団で、以降、毎年続けている公演では団員自らが宣伝し客席を満席にする、言わば劇場と市民の観客とを繋ぐ架け橋とも言える存在である。今回の参加で、キラリ☆かげき団のメンバーは、アーティストと市民との協働により一層活動の幅を広げ、さらに新たな観客を開拓する等、「開かれた場」、「出会いや交流の場」、「人材を育む場」の当館のミッション実現にむけた 3 つの場づくりの活動をさらに発展させることができた。

多様なジャンルの外部団体や個人と提携した事業の成果の例として、トッパンホールのプロデューサーの西巻正史との共同作業を挙げる。ダンス・演劇の二人の芸術監督の専門分野に加えて、音楽分野の充実を図るため、西巻氏のプロデュースにより、2013 年から毎年、当館のための企画「ニューイヤーコンサート」を実施し、多くの観客を魅了してきた。

今回の公演で濃密かつ精緻な室内楽の醍醐味を聴かせた、田原綾子（ヴィオラ）、笹沼樹（チェロ）、兼重稔宏（ピアノ）や、過去 2 度のニューイヤーコンサートの出演で名演を聴かせた、金子三勇士（ピアノ）等、いつにも増して豪華なアーティストが出演する、当館の開館 20 周年（2022 年）を記念するコンサート企画へと飛躍を遂げている。

また、永井愛（演劇）、橋爪功（朗読）、多田淳之介（演劇）、西田敬一（サーカスプロデュース）、こんにやく座（オペラ）、演劇百貨店（演劇 WS）などの多様なジャンルの外部団体や個人と提携し、当館オリジナル企画の創造と上演を行った。

上記に代表するような当館の取り組みは、年間事業プログラム冊子、年 4 回発行する事業情報誌の市内全戸配布や約 4,000 通の DM 送付等で事業の方針や内容を周知している。また、インターネットによる広報媒体を活用し、ホームページでの基本情報や重要情報、フェイスブックでの事業の取り組みの様子の公開、ツイッターでの公演当日券情報や周辺道路の混雑状況の等のタイムリーな情報提供など、各媒体の役割を整理し、市民への的確な情報提供と発信を行っている。

自己評価

地域の実演芸術等の振興など、地域の文化芸術の発展につながった（と認められる）か。

◆当館ならではのスタイルをもった市民協働・参加型事業による地域振興

<サーカス・バザール>

平成 24 年に開始し毎年 7 月に実施しているこの企画は、サーカスのパフォーマンスと市内の農業・商工業者等の市民が出店するマーケットが全館を会場に繰り広げられ、市内外から多数の来場者が訪れる幅広い層の市民に親しまれている事業である。また、本事業は幼少期や青少年期にむけた当館との出会いの機会となる入口事業として位置付けており、市内近隣の幼稚園 16 施設に約 2,700 名、市内 18 校の小・中・特別支援学校に約 9,000 名にチラシが手渡るようにしている。開催を重ねるごとに家族連れや若い世代の来場が多くなり、早い時期から鑑賞や参加することの楽しさや市内の食や産業に関心や理解を深める貴重な契機となっており、地域振興に欠かせない事業として全市的に認知されている。

さらに本事業を通じて、商業や農業等の生業の違いや、居住地域の垣根を越えて、市民の間に新しい交流や連携関係が生まれている。さらにそうした市民は当館のサポーターとなって、様々な事業に対して協力や支援をしてくれるようになっている。

<ふじみ大地の収穫祭>

上記の「サーカス・バザール」での市民との協働の経験を活かし、地域の祭りの再生と活性化を通じてまちづくりを目指すイベント「ふじみ大地の収穫祭」を平成 29 年度に開始し、毎年 11 月に行っている。

本来であれば、商業や農業やまちづくりの分野で活動する市民が組織する実行委員会が中心となり、当館のホール内やロビー空間などに、郷土芸能が演じられる舞台や農家がつくる料理が並ぶ出店コーナーなどを設けて、賑わいを創出しているが、今年度の開催はコロナ禍により中止となった。中止決定の後、実行委員の市民のメンバーから、今後の地域振興のために、これまでの軌跡を残したいという強い要望があり、これまでの全 4 回の活動の記録や、前回行った市内のお囃子や獅子舞等の伝統芸能の継承と発展をテーマにしたトークショーの内容をまとめた記録誌を発刊し、実行委員の市民自らが広報宣伝を行った。

◆学校教育機関との連携による地域の文化芸術の発展

<万作の会狂言公演><キラリ☆風流寄席>

伝統芸能分野の充実化を図るために実施している、万作の会による狂言公演『磁石』『弓矢太郎』と、当館の事業運営サポート委員会の市民のメンバーが企画する『キラリ☆風流寄席』の上演では、当館からほど近い私立高校の生徒が団体で訪れ、当館の主催公演が芸術体験学習といった学校教育プログラムの一つとして活用されている。こうした公立文化施設と学校教育機関の連携による地域の文化芸術の発展を今後も継続し、着実に発展させていく。

(5) 持続性

自己評価

事業を通じて組織活動が持続的に発展する（と認められる）か。

持続可能な組織運営にむけて

◆人材配置と育成

当館は、マネージャー、芸術監督、館長そして舞台技術者に豊富な経験や実績を有する専門的人材を配置し、館の貸館業務全般を担う「管理担当」、主催事業の企画・運営を担う「事業担当」の2担当制で業務を行う。本助成事業の実施を担う「事業担当」は4名で構成し、2名がプロパー職員（18年間の当館での文化芸術事業の企画制作経験を有する統括リーダー、文化行政担当課や地域創造等で多数のアートプログラムの企画と実践を重ねた事業担当リーダー）、2名が教育機関等で舞台芸術のマネジメント等を学んだ2年目をむかえる若手職員である。現在は契約職員であるが、研修や実践を通じた組織活動の発展にむけた人材教育を行い、あわせて正規職員への登用を計画している。

◆財源の安定化

館の維持管理やそれに伴う人件費として、市からの指定管理料（毎年約1億9千万円）が支出されている。事業収入については、事業への充当が認められている施設利用料と公演チケット収入増にむけた取り組みを行う一方、一層充実した自主事業展開のための外部の助成金の獲得が重要である。現状では、当助成金（劇場・音楽堂等機能活性化推進事業）を中心に、事業ごとの目的や内容によって、（一財）地域創造や国際交流基金への助成金申請や事業の共同主催の提案等を行い、資金の獲得につとめている。

* 以下は過去3年の実績

- ・平成31(令和元)年度 文化庁 22,050,000円 文化庁国際交流支援 11,121,000円
 (一財)地域創造 10,000,000円 国際交流基金 9,700,000円
- ・令和2年度 文化庁 17,177,138円
- ・令和3年度 文化庁 16,389,000円 (一財)地域創造 3,800,000円

◆PDCAサイクルに市民のニーズを組み込んだ事業計画と事業運営

当館では、助成の趣旨とそれを活用する当館の意義を深く認識したうえで事業を計画し(P)、これに基づいて、当館のアーティストが主導するプログラムを実施する(D)。そして、市民と直接触れあえる事業の現場や(2)の妥当性の欄で延べた、市内外の各種団体との協働やヒアリングを通じて、市民が日ごろ自らの生活や仕事、また地域の現状等について抱いている意見や問題意識を把握し(C)、そうした諸課題に文化芸術を通じて向き合うための運営手法の見直しを図る(A)。このような手法を通じて、助成を最大限に活用し、かつ市民ニーズに沿った事業展開に努めている。

⇒ ⇒ ⇒ (PDCAサイクル)に(ニーズ調査)を組み込んだ事業計画づくりと事業運営の流れ ⇒ ⇒ ⇒

